

岩美町文化財調査報告書第21集

鳥取県岩美郡岩美町

岩美町内遺跡発掘調査報告書 V

2001.3

岩美町教育委員会

序 文

本町は鳥取県の最東端、兵庫県との県境に位置する人口約14,700人の町です。山陰海岸国立公園・名勝天然記念物に指定された浦富海岸、国指定天然記念物のカキツバタ群落などとともに、原始、古代遺跡も多く、歴史豊かな風土と自然に恵まれた環境にあります。

このようなすばらしい風景や環境を保存し、歴史・自然体験の場として活用していくことが、次代を担う青少年の育成にとっても重要なことでもあります。

今回の発掘調査は、岩美町浦富地区で行われる浦富真砂土採取事業、院内地区で行われるNTTDoCoMo小田基地局基礎設備工事に伴い、これらの工事予定地内の遺跡の有無、範囲を確認するための試掘調査であります。岩美町教育委員会が主体となり、事業主体者をはじめ、地元関係者と綿密な連絡を取り合い調査を進めて参りました。

試掘調査が完了し、ここに簡単なから一書をもって結果をご報告申し上げます。みなさまのご高覧に供し、ご批判・ご鞭撻を賜りたいと存じます。最後に、現場で調査に携わっていただいた皆様、ご協力、ご指導いただいた多くの方々や関係機関に心より深く感謝申し上げます。

平成13年 3月

岩美町教育委員会
教育長 大黒 啓之

例 言

1. 本書は、平成12年度に岩美町教育委員会が、国庫及び県費補助金を得て実施した岩美町内遺跡発掘調査(浦富地区・院内地区)の報告書Vである。
2. 本遺跡の発掘調査は、鳥取県岩美郡岩美町大字浦富字内池田および大字院内字岡畑においてトレンチによる試掘調査を行い本報告書を作成した。
3. 地形図(第1図)は、建設省国土地理院発行の50,000分の1地形図の一部を利用した。
4. 本書で使用した方位は、真北で、レベルは海拔標高である。
5. 出土遺物の整理及び本書の執筆・編集は中島伸二が行った。
6. 記録写真、実測図等は岩美町教育委員会が保管している。
7. 調査にあたり、下記の機関及び諸氏にご指導及びご協力をいただいた。ここに記して謝意を表す。

鳥取県教育委員会事務局文化課、鳥取県埋蔵文化財センター、株式会社 田中組、
株式会社熊谷組広島支店ドコモ作業所、土地所有者の方々

本文目次

第1章 発掘調査の経緯	1
第2章 遺跡の位置と環境	1
第3章 調査の概要	
1. 浦富地区	5
2. 院内地区	10
第4章 ま と め	12

挿 図 目 次

第1図 岩美町遺跡分布図	4
第2図 浦富地区試掘調査地位置図	6
第3図 浦富地区試掘トレンチ配置図	7
第4図 浦富地区第1トレンチ断面図	9
第5図 院内地区試掘調査地位置図	10
第6図 院内地区試掘トレンチ位置図	11

図 版 目 次

図版1 浦富地区試掘調査地全景・浦富地区第1トレンチ	
図版2 浦富地区第1トレンチ遺構検出状況	

第1章 発掘調査の経緯

今回の調査は、本町の浦富地区及び院内地区の2地域において、それぞれ開発事業に伴い行なわれた。

浦富地区においては、平成11年8月、株式会社田中組から浦富真砂土採取事業計画に伴い、計画予定区域内における埋蔵文化財の有無について照会があった。本町教育委員会は、現地を踏査した結果、埋蔵文化財が存在する可能性のある地域であることを確認し、工事を行う場合は、埋蔵文化財の保護について協議するよう回答した。

その後、平成12年2月、株式会社田中組から当開発事業の申請があり、本町を経由して県へ報告した後、同年3月、県より開発協議結果が本町に通知された。その内容については、事業区域内に埋蔵文化財が存在する可能性があるため本町教育委員会と協議をするようにとのことであった。これを受けて、当開発事業の窓口となっている本町企画観光課、株式会社田中組、本町教育委員会で工事予定地内における埋蔵文化財の保護と工事との調整を図るべく協議を行なった。その結果、遺跡の存在の有無、範囲確認、性格の把握を目的とした試掘調査を実施することとなった。

また、院内地区の小田小学校の北方向に広がる丘陵においては、NTTDoCoMo小田基地局基礎設備工事に伴い、工事主体者である株式会社熊谷組広島支店ドコモ作業所と協議を行った結果、本工事予定地内においては「岩美町遺跡分布図」に院内岡畑遺跡の散布地の範囲内として示されていることからトレンチによる試掘調査を実施することとなった。

第2章 遺跡の位置と環境

岩美町は、鳥取県の最も東寄りに位置する。北は日本海に面し、三方を山地に囲まれる。南側は国府町、西側は福部村に隣接する。東側は、兵庫県美方郡浜坂町および温泉町と県境を隔てて接する。町内には、標高1000mの河合谷高原より源を発する蒲生川が北西に貫流し、その南西側には、同じ山塊より発した小田川が北流している。その流れは途中で合流し、日本海へ注ぐ。二つの河川の周辺には、肥沃な谷平野、沖積平野が形成されている。

岩美町の海岸線は変化に富み、山陰海岸国立公園に指定されている。羽尾岬、陸上岬が海に突き出し、その間に美しい弧を描いた砂浜が形成されている。網代、田後港という良港にも恵まれ、漁業の町としても良く知られているところである。

岩美町の歴史の幕開けは、縄文時代より始まる。従来、鳥越の沢尻(50)で条痕地、無文地を呈した十数片の縄文土器が採取されたほか、岩井廃寺跡(47)より縄文晩期の深鉢が、そして山ノ神5号

墳(55)の発掘調査時に、縄文前期の土器片や石鏃・石斧の出土が知られていた程度であった。

平成11・12年度に調査した新井三嶋谷遺跡(67)に於いて、縄文時代後期前半の土器片を伴った長径1.43m、短径1.34m、深さ0.4mを測る掘り鉢状のやや歪な円形の土坑を検出しており、岩美町内では初めての遺構検出例となった。土器片の他、多数の安山岩系の石材・剥片、そして黒曜石の剥片も含まれ、この場所で石器を製作していたであろう事が推察された。また、遺物包含層より晩期の突帯土器を検出している。このように確実に縄文時代の遺跡は増加している。

弥生時代に入ると、蒲生川下流域の沖積平野にいくつかの遺跡が見られる。集落跡として昭和40年代の河川改修の際、川底より弥生中期～後期の壺・甕・器台などの土器片の他、大型蛤刃石斧・石包丁・砥石等の石製品を出土した新井遺跡(70)が知られている。

また、新井遺跡に隣接した山腹に所在する上屋敷遺跡(69)からは、流水文銅鐸を出土している。この銅鐸は、近年調査が行われた島根県加茂岩倉遺跡出土の31・32・34号鐸と、また以前より知られていた神戸市桜ヶ丘3号銅鐸とともに同じ鑄型で造られた兄弟鐸であることが判明し話題となっている。

上屋敷遺跡から南東2kmにある新井三嶋谷遺跡では、後期初頭に造営されたと考えられる貼石の墳丘墓(新井三嶋谷1号墳丘墓)を1基、また、時期を確定しがたいが、ほぼ同時代に造られたであろう方形の墳丘墓(新井三嶋谷2号墳丘墓)を1基確認している。新井三嶋谷1号墳丘墓は、この時期の墳墓の中では、全国的にも最大級のもので、南北約26.5m、東西約18m、高さ最大約3mを測る。墳丘には拳大から人頭大よりやや小振りの石を貼り付け、一部石列が認められた。この発見により、前述した新井遺跡や上屋敷遺跡との関連性が窺われる。

新井三嶋谷遺跡の西方に位置する丘陵尾根上に存在した新井32号墳下(68、消滅)からは、弥生時代中期と推定される木棺墓2基を検出している。これに隣接した新井51号墳(68、消滅)からは、弥生時代後期の壺・器台の口縁部を検出し、墳丘墓の存在が想定される。

その他、小田川下流域の上太夫谷遺跡(8)からは、弥生時代後期と推測される堅穴住居跡・木棺墓群が検出されている。

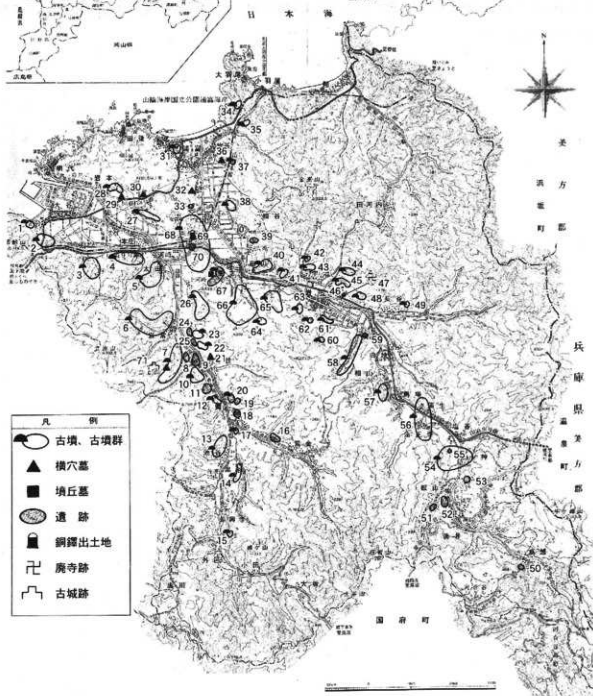
古墳時代になると、弥生時代に展開した沖積平野の生産基盤に加え、山間部の開拓も進み、町内各地に古墳の造営がみられる。現在、約450基の古墳と約20基の横穴墓が町内に確認されている。その中でも、巨大な石室を主体とし家形石棺を有する古墳が確認されている高野坂古墳群、小畑古墳群や砂丘地に造営された浦富古墳群など特色のあるものが多い。

古墳時代終末期より奈良時代に入っても依然として古墳の造営は続くが、その中には有力な氏族集団が建立したと思われる岩井廃寺がその存在を知られている。岩井廃寺は、白鳳時代後期の法起寺式の伽藍配置をとったものと考えられている。また、7世紀末には銅が産出されていた小田川上流の荒金集落付近に位置する広庭遺跡では、発掘調査により規格性をもった掘立柱建物群が検出されている。南北朝に入ると、山名氏が因幡支配の戦略的拠点とするため二上山城を築き、戦国期まで機能を果たしていた。この時期には、町内の至る所に城郭跡が築かれている。

浦富地区においては、試掘調査箇所を中心に、周知の埋蔵文化財である岩美病院裏横穴墓群(32)が所在している。また、院内地区においては、古墳時代～平安時代の院内岡畑遺跡、院内古墳群などが確認されている。



岩美町全図



- 凡 例
- 古墳、古墳群
 - 横穴墓
 - 墳丘墓
 - 遺跡
 - 銅鐸出土地
 - 廃寺跡
 - 古城跡

- | | | | | |
|------------|-------------|--------------|---------------|-------------|
| 1 弥生古墳 | 16 法前遺跡 | 31 新宮古墳群 | 46 岩井原寺下層遺跡 | 61 岩井並地下古墳群 |
| 2 小畑古墳群 | 17 院内古墳群 | 32 岩美御院舊敷穴墓群 | 47 岩井地寺跡 | 62 岩井由塚古墳 |
| 3 平野古墳群 | 18 院内回廊遺跡 | 33 新井原遺跡 | 48 岩井大野古墳群 | 63 岩井奥山古墳群 |
| 4 本庄古墳群 | 19 長瀬遺跡 | 34 畑井古墳群 | 49 長谷堂塚古墳群 | 64 忍志真の谷古墳群 |
| 5 太田古墳群 | 20 長瀬緒ノ谷古墳 | 35 牧谷鎌着古墳群 | 50 真鏡山古墳群 | 65 坂上古墳群 |
| 6 満願寺谷古墳群 | 21 袖ヶ谷鎌穴墓 | 36 牧谷塚穴墓群 | 51 銀山女郎谷遺跡 | 66 忍志古墳群 |
| 7 高野塚古墳群 | 22 岩常城山古墳群 | 37 牧谷下竹藪古墳 | 52 銀山真鏡寺遺跡 | 67 新井三崎谷遺跡 |
| 8 上ミツエ遺跡 | 23 岩常城ノ谷古墳群 | 38 高山林間遺跡 | 53 洗井新助谷遺跡 | 68 新井古墳群 |
| 9 高住古墳群 | 24 宮の前遺跡 | 39 高山上ノ山古墳群 | 54 山ノ神遺跡群 | 69 上屋敷遺跡 |
| 10 東森谷遺跡 | 25 福右遺跡 | 40 忍志山古墳群 | 55 山ノ神遺跡 | 70 新井遺跡 |
| 11 長崎古墳群 | 26 横吹古墳群 | 41 忍志山古墳群 | 56 藤生古墳群 | 71 二上山遺跡 |
| 12 地谷古墳群 | 27 浦富日ヶ廻古墳群 | 42 平治院ヶ谷古墳群 | 57 岩井地寺跡 | |
| 13 地谷古墳群 | 28 岩本古墳群 | 43 宇治宮下層古墳群 | 58 真名古墳群 | |
| 14 地谷新山古墳群 | 29 岩本塚穴墓群 | 44 宇治山頂層古墳群 | 59 真名遺跡 | |
| 15 延興寺城山古墳 | 30 坊谷塚穴墓群 | 45 岩井宮の谷古墳群 | 60 岩井太郎石ノ門古墳群 | |

第1図 岩美町遺跡分布図

第3章 調査の概要

1. 浦富地区試掘調査

調査地点 岩美郡岩美町大字浦富字内池田

調査期間 平成12年7月19日～8月23日

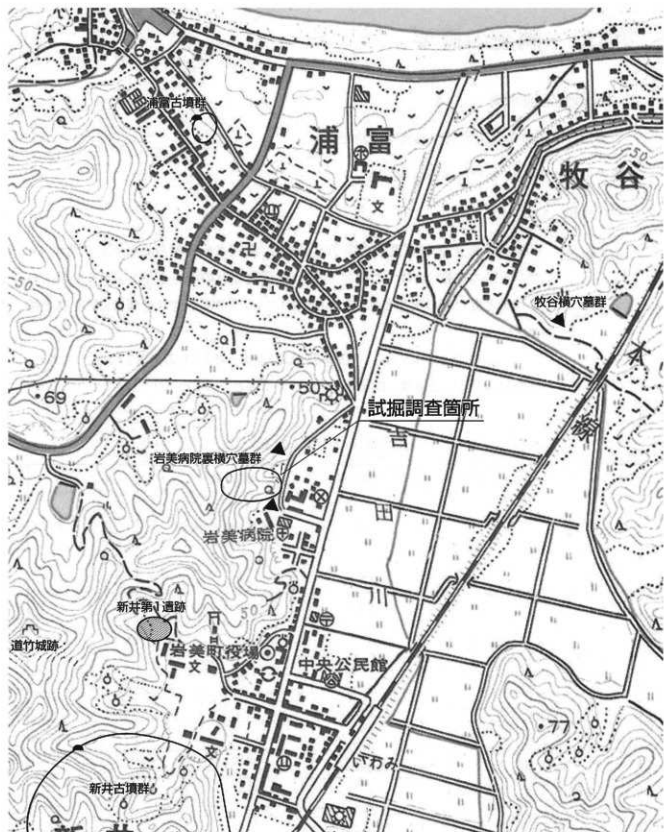
調査面積 86㎡

調査概要 浦富真砂土採取事業の工事予定区域は、東西方向の尾根から南北に向かって伸びる谷の裾部にかけての範囲である。埋蔵文化財の所在が予想される尾根上の平坦地と横穴墓の地形と考えられる箇所にトレンチ9本を設定遺構および遺物の確認を行った。

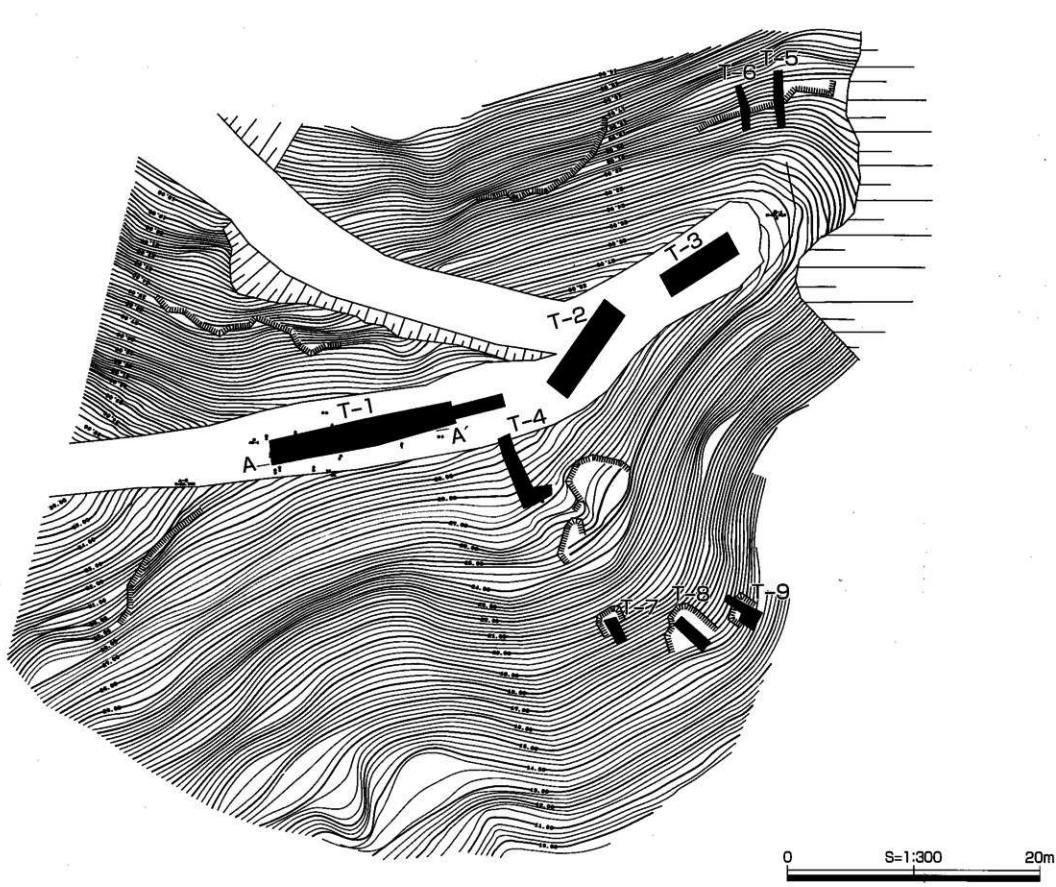
その結果、第1トレンチから、埋葬施設および周溝と考えられる遺構を検出した。なお、他のトレンチからは遺構、遺物の所在について確認されなかった。

〈浦富地区トレンチ一覧表〉

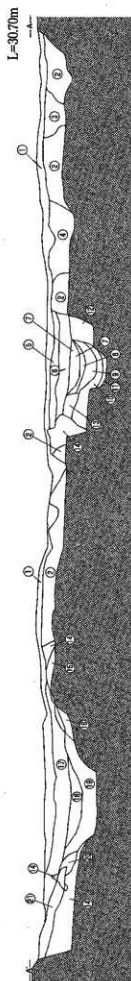
トレンチNo	規模(m)	面積(㎡)	検出遺構	出土遺物
T1	15 × 2 +4 × 2	34	周溝・埋葬施設	出土せず
T2	8 × 2	16	なし	◇
T3	7 × 2	14	◇	◇
T4	6 × 1 +1.5 × 1	7.5	◇	◇
T5	5 × 0.5	2.5	◇	◇
T6	5 × 0.5	2.5	◇	◇
T7	2.5 × 1	2.5	◇	◇
T8	4 × 1	4	◇	◇
T9	1.5 × 1 +3 × 0.5	3	◇	◇



第2図 浦富地区試掘調査地位置図



第3図 消富地区試験トレンチ配置図



- ① 暗褐色土(表土)
- ② 浅黄褐色土(地山)
- ③ 褐色土
- ④ 黄褐色粘質土
- ⑤ 黄褐色粘質土
- ⑥ 黄褐色粘質土
- ⑦ 明黄褐色土

- ⑧ 黄橙色粘質土(⑥よりやや濃い)
- ⑨ 黄褐色粘質土(⑥よりやや濃い)
- ⑩ 黄褐色粘質土(礫混り)
- ⑪ 黄褐色粘質土(⑩よりやや濃い)
- ⑫ 黄褐色粘質土(大粒な礫混り)
- ⑬ 明黄褐色粘質土
- ⑭ 擾乱

- ⑮ 黄褐色粘質土
- ⑯ 明褐色粘質土
- ⑰ 褐色粘質土
- ⑱ 明黄褐色粘質土
- ⑲ 黄褐色粘質土
- ⑳ 明黄褐色粘質土
- ㉑ 黄褐色粘質土

第4図 浦富地区第1トレンチ断面図

2. 院内地区試掘調査

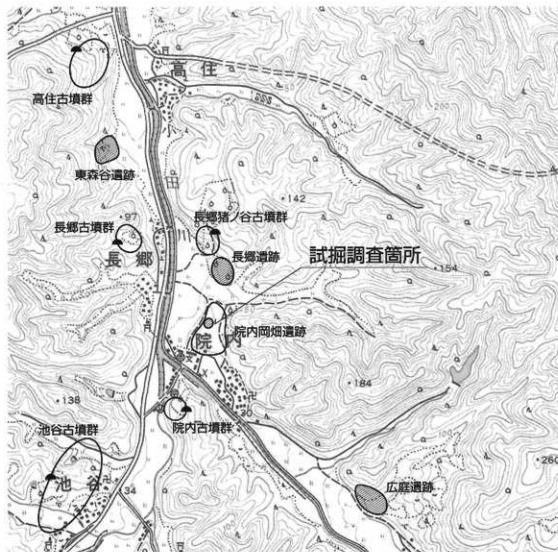
調査地点 岩美郡岩美町大字院内字岡畑

調査期間 平成12年11月30日～12月7日

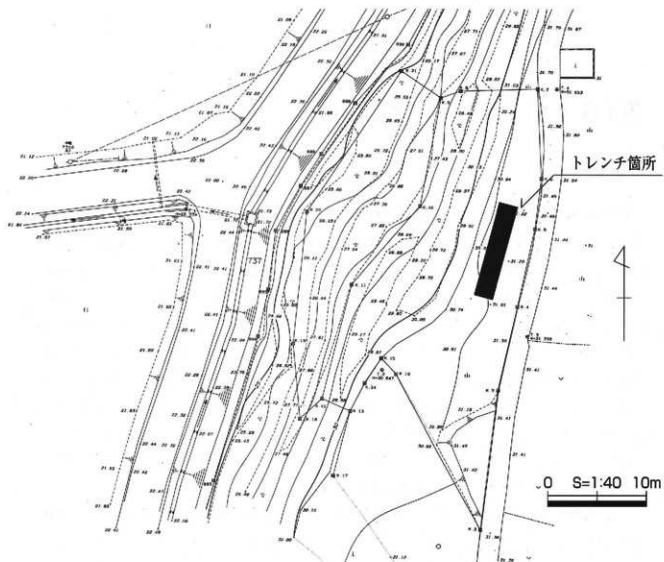
調査面積 20m²

調査概要 工事予定地は、「岩美町遺跡分布図」に院内岡畑遺跡の散布地として示されている小田小学校の北方向に広がる丘陵の西側に位置し、近接する畑地から遺物の散布が確認されており、遺構の所在する可能性があるため、試掘調査を実施することとなった。

今回の調査は、鉄塔設置に伴い掘削される箇所に幅2m×長さ10m×深さ0.7mのトレンチを設定し調査したが、遺構、遺物は検出されなかった。



第5図 院内地区試掘調査地位位置図



第6図 院内地区試掘トレンチ位置図



院内地区発掘調査地 全景(南より)

第4章 ま と め

1 浦富地区

浦富真砂土採取事業の工事予定地の周辺に山裾には周知の遺跡である岩美病院裏横穴墓群が所在している。このことから踏査により、工事予定地内の尾根の両側に伸びる谷に確認した5箇所の横穴地形にそれぞれトレンチを設定し、調査したが遺構および遺物は全く検出されなかった。戦時中、この場所において松根油を集めるため、たびたび黒松の根を採っていたという経過もあり、この横穴地形は、その形跡であることも考えられる。いずれにしてもこの横穴地形は横穴墓ではないと判断した。

また、尾根上の平坦地には4本のトレンチを設定して調査を行った。そのなかで最初に設定した第1トレンチから遺構を4箇所確認した。そのうち、両端に検出された遺構を周溝とし、その間の2つの遺構を墓の主体部として考えた。さらに詳細に調査するため、主体部として考えた2つの遺構のうち、規模の大きい東側の遺構に幅30cmのサブトレンチを設定し、掘り下げたところ2段堀の墓壕であることが判明した。築造された時代については、遺物が全く検出されなかったことにより、弥生の墳丘墓である可能性は低く、おそらくは古墳時代の墓であると考えられる。

なお、遺構の広がる可能性を考慮して、第1トレンチに延長してトレンチを設定し、調査したが、遺構、遺物は検出されなかった。第2～4トレンチにおいても同様に、遺構、遺物は検出されなかった。

2 院内地区

院内地区については、因幡志に「新宮はこの地に熊野権現を移し、その神霊を勧請せるを以て名づけ、寺を神宮寺と号す」「村を院内と称するは、その神宮寺の院内にあるを以てなり」とあり、院内地区及びその周辺には、院内岡畑遺跡、長郷遺跡、広庭遺跡などが確認されている。NTTDoCoMo小田基地局基礎設備工事の予定地は、「岩美町遺跡分布図」に院内岡畑遺跡の散布地として示されている平地の一部分であり、工事の範囲も限られていたので、それに対応した試掘調査の範囲内においては、遺構、遺物の出土は見られなかった。

報 告 書 抄 録

ふりがな	いわみちょうないいせきはつくつちょうさほうこくしょ							
書名	岩美町内遺跡発掘調査報告書V							
副書名								
巻次								
シリーズ名	岩美町文化財調査報告書							
シリーズ番号	第21集							
編集者名	中島 伸二							
編集機関	岩美町教育委員会							
所在地	鳥取県岩美郡岩美町大字浦富675番地1							
発行年月日	西暦2001年3月26日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド		北 緯 ° ' "	東 緯 ° ' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
浦富6号墳	鳥取県岩美郡 岩美町大字浦富 字内池田	31302		35° 34' 34"	134° 20' 00"	2000. 7.19 ～ 2000. 8.23	86m ²	浦富真砂土 採取事業
院内岡畑遺跡	鳥取県岩美郡 岩美町大字院内 字岡畑	31302		35° 31' 34"	35° 31' 34"	2000. 11.30 ～ 2000. 12.7	20m ²	NTTDoCoMo 小田基地局 基礎設備 工事
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
浦富6号墳	古墳	古墳時代	埋葬施設 周溝		出土せず			
院内岡畑遺跡	散布地	古墳時代 ～ 平安時代	なし		出土せず			



浦富地区発掘調査地 全景(東より)



浦富地区 第1トレンチ(西より)



浦富地区 第1トレンチ(東より)

浦富地区 第1トレンチ
遺構検出状況
(東側主体部)



浦富地区 第1トレンチ
遺構検出状況
(東側周溝)



浦富地区 第1トレンチ
遺構検出状況
(西側周溝)



岩美町文化財調査報告書 第21集

岩美町内遺跡発掘調査報告書 V

平成13年3月22日 印刷

平成13年3月26日 発行

編集発行 岩美町教育委員会
鳥取県岩美郡岩美町大字浦富675番地
TEL (0857) 73-1302

印刷 日ノ丸印刷株式会社
鳥取県鳥取市寿町915番地
TEL (0857) 22-2248